



顧問

二村郁雄先生

35年にわたり多治見西高校バレー部の顧問を務める。選手たちの個性を大切にし、自主性を重んじる指導スタイルが信条。東濃地区におけるバレーの振興にも情熱を注ぐ



今年7月のインターハイでは、徳島の城南高校と対戦。第1セットを21-25で奪われながら、第2セットを25-23で取り返し、フルセットにもつれ込む接戦を繰り広げた

藤美優選手は、「濟美戦がこの大会の一番の山場」と感じていた。「ここで勝たなければ次は

務めた3年の齊藤美優選手は、齊藤がこの大会で優勝した。

「济美戦がこの大会の一番の山場」と感じていた。「ここで勝

たなければ次は



大きな躍進を遂げた多治見西高校バーボール部は、「来年こそは全国大会へ」を合言葉にさらなる練習に励んだ。そして今年5月、県総体へ順当に駒を進めると、1、2回戦を危なげなく突破。3回戦で激突したのが、第5シードの済美高校だった。県下屈指の強豪校であり、昨年の大会でも熱戦を繰り広げた因縁の相手である。

キヤブテンを務めた3年の齊藤美優選手は、齊藤がこの大会の一番の山場」と感じていた。「ここで勝

たなければ次は

「この学校でバレーがしたい」。地域のバレー少女たちの目標となるべく、多治見西高校バーボー

有望選手の加入を契機に全国を狙えるチームへ成長
今年5月に行われた県総体において、見事初優勝を果たした多治見西高校バーボール部。東濃地区予選では何度も優勝している古豪だが、顧問を務めて35年目となる二村郁雄先生による、県大会では思うような実績を上げられていなかつたという。翌年に県総体でベスト4、インターハイで2位入賞を果たして以降、ベスト16がやつとの状況が続いていた。

転機が訪れたのは2019年4月、県の中学生選抜チームに参加した選手2人の入部がきっかけだ。岐阜市の強豪校などに進学するケースが多い中、地元に残つてプレーする決断をしてくれたおかげで、間違いなくチームの戦力アップにつながつた。

実力のある新人選手の加入は、チーム内に自然と競争意識を芽生えさせた。そして迎えた2020年1、2月の県新人大会でベスト8に進出。さらに10、11月に開催された県総体では、14年ぶりに3位に輝く好成績を収めたのである。

全試合2対0の完全優勝!

スローガンは「誠心一筋」
バレーができる環境に感謝
「このチームの特徴は、形にはまらず、選手たちが自由にプレーしていること」と話す二村先生。「基本的な練習はしますが、バレーのスタイルは自分たちで考える。攻撃の仕方やフォーメーションなどはあくまで選手たちに任せています」

チームのスローガンは「誠心一筋」。これは「誠心一筋に生き人の幸せの支えとなれ」という同校の建学の精神に由来する。戦う姿勢を前面に押し出すのではなく、「柔らかくも芯のある言葉を」と

ついている。

バーボールを通じて東濃地区を盛り上げたい
6月の東海総体では、2回戦で愛知の誠信高校と対戦。大接戦を繰り広げた結果、惜しくも敗戦を喫した。7月に石川県で行われたインターハイでは、予選グループ戦を突破できず、残念ながら決勝トーナメント進出を逃した。

「どの試合も僅差で、実力的に十分勝てる相手でした。やはり初出場の影響で、少なからず緊張があつたと思います。本来の実力を發揮できなかつたのは私の指導

ない。まずはこの一戦に全力を注ごう」。そう考え、行動した結果はセットカウント2対0で完勝。

この勝利でチームに勢いがつき、4校総当たりの決勝リーグでは、並み居る強豪を抑えて全試合2対0の完全優勝を果たした。



卷頭特集

「誠心一筋」を胸に、見据えるはさらなる高み

多治見西高校 バーボール部

令和3年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)への出場を果たした多治見西高校バーボール部。

同校として史上初、東濃地区でも53年ぶりの快挙を振り返りながら、

チームが大切にしていることや今後の意気込みなどについて、顧問の二村郁雄先生とキャプテンの齊藤美優選手に話を聞いた。



キャプテン
齊藤美優選手

昨年県大会3位の成績を収め、「全国大会初出場」を目標に掲げるチームを主将として率引。コロナ禍で練習が制限される中、選手たちの士気を高め、見事に全国大会へと導いた

現在は3年生が引退し、1、2年生による新チームが始動。「もう一度全国の舞台に立つ」という大きな目標を掲げる一方、二村先生は「地域にもっと貢献していくたい」と口にする。「私たちが全國大会に出場したこと、東濃地区で頑張っている志の高い子たちが集まれば、県大会で優勝できると証明されたと思います。ぜひこの地区的多くの中学生、高校生にバーボールに触れてもらい、うまくなりたいという生徒がたくさん生まれてくれたらいいなと思います」